

令和3年度 愛知県栄養教諭研究大会

令和3年8月23日（月）オンラインにて愛知県栄養教諭研究大会を行いました。

教育講演会

演題「これからの学校教育で目指す

食育における栄養教諭の可能性」

国立大学法人 愛知教育大学 生活科教育講座 教授 加納 誠司 氏

食に関する指導のカリキュラムリーダーとなる栄養教諭が、主体的・対話的で深い学びをマネジメントするための方法として、昨今の教育課程を整理することや、食の実践を深い学びに導くためのポイントを学びました。

さらに、学校カリキュラムの中に、『あいち食育いきいきプラン2025』が目指す「食のSHIN化」を取り入れることで、心に残る学びを創ることができる可能性をいくつかの実践例をもとに示していただきました。



【ご講演を視聴した感想】

子どもの学びを深めるためには「学びと学びがつながる」「子ども主体でつなげる」ことが大切であるというお話がありました。いろいろな教科において、食に関わる学びを子ども自身がつなぐ役割を果たさなければならぬことが分かりました。また、食に関する指導の全体計画の作成に関わり、各学年がどのような学習をするか把握していることなど栄養教諭の職務を果たすことが必要だと思いました。子どもたちの「学びたい」という気持ちを引き出し、題材の選び方、出会わせ方等を工夫し、対話を取り入れながら、子どもたちの思いや考えを引き出せる栄養教諭になりたいと思いました。

食に関する指導も「SHIN化」し続け、子どもの独創性や豊かな発想に期待し、子どもの進みたい方向に寄り添い、思考を見とることが大切だと思いました。未来を創造していく子どもたちに私たち栄養教諭は、学びの支援を行うことで深い学びにつながるようにしていくとともに、子どもたちの明るい未来を信じ、これからも食に関する指導の授業づくりに努めていきたいと思えます。

学校全体で食の実践をさらに深い学びへと導くには、栄養教諭の専門性を生かし学校カリキュラムをマネジメントする力が求められることを改めて痛感しました。小学校6年間、中学校3年間の縦のつながりと、教科横断的な横のつながりを結び付けることは、『あいち食育いきいきプラン2025』で目指す「SHIN化」にもつながると感じました。食を新化、進化、深化、伸化させる中で子どもたちが知識・技能を習得し、自分の生き方や生活・社会の中で生かすことができるよう働きかけていきたいと思えます。

式典

当日は多くの来賓のご臨席が予定されておりましたが、愛知県が8月8日からまん延防止等重点措置の適用対象になったため、オンライン開催となりました。

その中で、愛知県教育委員会 保健体育課 担当課長 小杉正樹様にお越しいただき、ご祝辞をいただきました。また、愛知県小中学校校長会 副会長 鶴飼洋一様からご祝辞を頂戴し、披露させていただきました。



地区別研究発表

愛日東部地区（愛日地方栄養教諭・学校栄養職員研究会）

「野菜のよさや働きを理解し、進んで野菜を食べようとする子の育成」—主体的、対話的な「あい・たい学習」を通して—

小学校2年生を対象に「～しあう学習」と、「～したい学習」の両方を意識した「あい・たい学習」を通じた児童同士の「伝え合い」を重視した取組を発表しました。



西三河地区（碧海五市栄養教諭研究会）

「自分の健康課題に気づき、
生涯の健康につながる食生活を実践する子の育成」
—肥満傾向児童に対する個別的な相談指導を中心として—

児童が自らの健康課題に気づき、解決するための目標や作戦を自分で立てることで、食生活改善への意欲を高め、実践へとつなげる個別的な相談指導の取組を発表しました。



夜間定時制高等学校（愛知県高等学校給食研究協議会栄養士部会）

「感謝の心と社会性を養い、個々の生活状況に応じた
食生活を考えることができる生徒の育成を目指して」

4年間の継続的な食に関する学習を通して、教員・調理員・学校栄養職員が組織的・継続的に関わることで、食に関心を持ち、感謝の心や社会性を養う取組や、食事の重要性や栄養バランスについて学習することで、生活状況に応じた食生活を考える取組を発表しました。



指導講評

愛知県教育委員会 保健体育課 主査 伊藤正志 氏

愛日東部地区、西三河地区、夜間定時制高等学校の発表について、指導講評をいただきました。

愛日東部地区の発表は、学習意欲の高まりを、実践まで結び付けたよさがある。新しい生活様式の中で協働的な学習の部分に制約を受けている状況ではあるが、今後は ICT の活用などで、令和の日本型学校教育の視点も入れて実践していくとよい。

西三河地区の発表は、個別的な相談指導の体制や対象とする児童の事例を示してくれた。今後は、栄養教諭が養護教諭だけでなく学級担任や保護者とも協力体制を築き、さらに市の保健師など地域人材資源を有効に活用し、健康課題をもつ児童を支える体制づくりをするとよい。

夜間定時制高等学校の発表は、給食の時間が 20 分ほどしかない中、食堂内にポスターの掲示や POP の設置、また、調理員が生徒への声掛けを積極的に行うなど、様々な取組をしている。今後は、生徒の多様な生活スタイルに合わせた指導も視野にいれていくとよい。

愛知県栄養教諭研究協議会を中心とし、一人一人が努力することで、愛知県の学校給食を基にした食に関する指導をさらに充実していけばよいとご示唆いただきました。